

令和4年度 施政方針



問 行政経営課
☎ 840-8193

はじめに

新型コロナウイルス感染症は、オミクロンという新たな変異株が発生し、未だ収束への糸口さえ見いだせない状況にあります。新型コロナウイルスに感染し、苦しんでおられる皆さまにお見舞いを申し上げるとともに、市民のいのちと健康を守るため、日夜ご尽力をいただいております医療従事者をはじめ、エッセンシャルワーカー等関係者の皆さまに改めて敬意と感謝を申し上げます。

すでに新型コロナウイルス感染症との戦いが始まっている中、私は市長に就任し、「市民のいのちと暮らし、雇用・地域経済を守ること」を最優先課題として、保育や学校、自治会などの感染症対策や小中学校給食費支援事業、市内事業者支援給付金、プレミアム商品券の発行など、様々な対策を講じてまいりました。引き続き感染症への強い危機感を持ち、感染防止対策に取り組み、コロナ禍で困窮した方々への支援や、落ち込んだ地域経済の回復を重点とし、ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、各種事業を推進し、市民の皆さまの協力のもと、この難局に立ち向かってまいります。

沖縄県においても、このコロナ禍において、復帰50周年の節目を迎えますが、沖縄振興特別措置法に基づく制度の過渡期にあり、厳しい局面にたたされています。新たに策定される沖縄振興計画に基づいてSDGsを盛り込んだ各種施策の展開がなされていくものと期待するものでありますが、沖縄振興予算は、令和4年度大幅に減少しております。

このことは本市においても、過大な影響があるものと認識しております。従いまして、令和3年度からスタートした「第5次糸満市総合計画」に掲げる様々な施策は、創意と工夫によって推進していかなければなりません。

そのような中であって、昨年開催された東京オリンピックのカヌー競技に本市出身の當銘孝仁選手が出場を果たしたことは、県民はもとより市民に対し大きな夢と感動を与えてくれました。本市の子どもたちにおいてもスポーツや文化、多方面での活躍は目を見張るものがあり、さらには、地域づくりや福祉、経済分野などでも地域を支える方々の受賞報告等が相次ぎ、多くの喜びをもたらしていただきました。地域の歴史と、これまで取り組んできた「つながりづくり」を大切にし、本市の魅力をさらに高め、昨年以上の喜びが地域に広まるよう、地域づくりに邁進してまいります。

また、令和4年度は、コロナ禍で延期・自粛等を余儀なくされた市制施行50周年記念事業等を適切な時期に実施し、これからの本市の発展を市民一丸となって希求するとともに、市民待望の観光文化交流拠点施設ぐる糸満がグランドオープンすることや世界へも誇れる大型リゾートホテルが開業すること、さらには、長年の課題であった沖縄県水産物地方卸売市場が開設されることなど、本市発展の足腰を強くする要素が次々と実現される見込みであります。

そのような明るい兆しがある一方で、本市の厳しい財政状況には変わりありません。従いまして、令和4年度もコ

基本姿勢

私は「未来ある糸満市の子ども達に誇れるまちづくり」を実現するために、市民の先頭に立って地域活性化の施策を展開するとともに、令和3年12月に制定した「子どもを虐待から守る条例」の理念を基本とし、虐待防止に係る意識の醸成を図り、子育て支援施策を有機的に連携させ、地域の力で子どもと家庭を支える社会づくりに取り組めます。また、「子どもからお年寄りまで、安心して暮らせる健康福祉社会」を実現するため、行政運営の原点は市民本位であることを念頭に、現場に赴き、市民の声を聴き、市民との対話を重視する市政運営を引き続き目指してまいります。糸満市がさらに繁栄し、にぎわいや活気のあるまちとなるよう「子どもの育み事業」、「真栄里地区の新たなまちづくり」についても、市民の皆さまとともに実現していきたいと考えております。

本市の人口は、毎年微増傾向ではあ

【地元を愛するヒーロー『エイトマン』】

糸満に住めば、あっという間にホームに感じてきます。自己流の分析ですが、その理由は街の共通歴史と地元文化がとても強いからだと思います。大都会では、残念ながらローカルな風習や習慣が徐々に薄れていきますし、小さい村では今度、独特なアイデンティティーが生まれません。人口6万人の糸満はちょうどいいサイズです。1年間あれば、観光ガイドに載る美々ビーチ、白銀堂、サバニ、ひめゆりの塔、ジョン万次郎などは勿論ですが、他にも豆腐屋、いとちゃんmini、FMたまん、広報いとまんなど知らぬ間に自分の日常の一部になってきます。その括りで、最近100%ローカルの8コマ漫画『エイトマン』まで存在すると知りました。

市の学校で以前からはやっていて、大人にも子どもにも認知度が既に高いと思います。私が発見したきっかけは、娘がくろしお号(移動図書館)から第1巻の単行本を借りてきたことです。部屋においてあった本のカバーに『糸満市 ヒーロー課 エイトマン』という文字が書いてあって…何それ? 私と戦場一緒か?? とすぐ親近感が湧いて読みたくなりました。それがまさにエイトマンの良さ、舞台は糸満だから身近に感じます。ストーリーの内容は個性豊かな8人の糸満チューが市のヒーローとして応募して、まちを守って市民を笑顔にさせる活動をしています。1人の少年、18歳の女子と男子、海人のオジサン、高齢のハルサー、中年のアンマー、カマボコ好きな太り気味男性と動物代表のおしゃべりな豚で構成されている部隊です。いわゆる典型的な糸



糸満市地域
おこし協力隊
フェイスブック



沖縄県糸満市 Itoman City

■人口			■火災・救急		
	2月	前月比		2月	前年比
人口	62,307	-73	火災	2件 (3件)	-3 (-5件)
男	31,578	-29	救急	226件 (484件)	25 (7件)
女	30,729	-44			
世帯数	27,549	-28			

※()内は令和4年の累計

■面積 46.60Km² (2021年10月1日現在)
 ■市の花木 ブーゲンビレア ■市の木 ガジュマル
 ■市の花 日日草 ■市の魚 タマン
 (人口、世帯数、火災・救急件数は2022年2月末現在)



満チューの戯画です。彼らはゴーヤやキャロットなどの糸満らしい物をモチーフに、それぞれのコスチュームの色はお馴染みの島草履の色を採用しています。それでヒーロー観はなんとか成り立っていますが、スーパーパワーと武器なんか一切持っていません。万が一の場合、石敢當を一応持参している位です! 島の平和を守る立場で、直近では、足がすぐ速い軽石怪人のカール・ルイジの対処に困る場面もありましたが、大した危機にさらされることなく、ただただ糸満を笑顔にするため自分たちなりにまちを盛り上げる活動を頑張っています。

作家の大城さとし先生もMade in Itomanです。兼城出身で現在沖縄タイムスなどに人気の『おばあタイムス』を描いている4コマ漫画家です。エイトマンは2005年から週刊(ワラビー)にずっと連載されているシリーズで、通算500回を超えています。大城さんに始まったきっかけを聞いてみると、『糸満のヒーローが居なかったから、自分で作って糸満の魅力を伝えられると面白い』とシンプルに答えました。街の魅力を伝えたい意思も素晴らしいと思うし、実際漫画にとどまらず、小学生とのコラボもして、8人のキャラクターを使ったPR動画の作成にも取り組んだ実績があります。リアルに街に貢献しています。

まだ読んだ事が無い方に、地産で地元愛があふれるその作品を是非、私と同じくクスクス笑いながら読んでほしいな。 **ルド** 図書館で借りたい人は…3冊おいてありますが、人気で予約必須です。
 参照: 大城さとし『糸満市ヒーロー課エイトマン』(ISBN-13:978-4871272629) 気になる方は探してみてください!



「声の広報」届けます
 目の不自由な人に糸満市の情報を届けるため、広報いとまをCDに吹き込み配布しています。「声の広報」を希望する人は、秘書防災課(☎840-8118)まで問い合わせてください。

ラジオ広報・市役所便り(FMたまん)
 ■月～金
 ① 7時45分～7時50分
 ② 12時55分～13時
 ③ 17時55分～18時
 ■土～日
 ④ 12時55分～13時